

バングラデシュ・シュンドルボンにおける 生物多様性保全を目指した自然体験プログラムの開発及び実践

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

3年目

実践

地域住民と植えた
マングローブ **10,000本**

助成活動により増えた
月収の割合 **16%**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **80%**



自然体験プログラムの様子①

課題

地域住民の環境保全に対する意識不足や経済的貧困により、マングローブを過剰利用していることから、シュンドルボンの生物多様性は急速に失われている。

目標

シュンドルボンの自然をいかした自然体験プログラムを開発し、地域住民が主体となって実施することで自然環境の保全と生計向上の両立を図り、生物多様性の保全を目指す。

活動内容と成果

助成3年目は参加者がプログラム費を全額負担することで運営委員会が自立して活動することを目指した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で活動制限を受けたことにより、予定していた自然体験プログラムを実施することができず、目標としていた地域住民の生計向上も十分には達成できなかった。一方で、運営ガイドラインの策定や広報ツールの開発等により運営委員会が自立して活動する基盤が整った。バングラデシュ国内でも旅行に対するニーズが高まっているので、地域住民とともに今後巻き返しを図っていく。



植林イベントの様子

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、イベント等が制限されてしまい予定していた自然体験プログラムがなかなか実施できなかったこと。

■工夫した点

自然体験プログラムに代わる新たな収入手段として「養鶏プログラム」を地域住民と始めたこと。これにより地域住民の平均月収が16%向上した。



自然体験プログラムの様子②

全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍において地域住民やカウンターパートとともにオンラインで相談しながら活動を進めてきた。活動の鍵である「地域住民の生計向上」を助成期間中に達成できなかったことは非常に悔しいものであった。一方で、運営委員会の設置や自然体験プログラムの開発など、自然学校を運営するうえでの基盤を整えることができた。助成期間終了後も地域住民の生計向上につながるように活動をサポートしていく。

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル1階
電話：03-5834-2897
E-mail：info@jeef.or.jp
HP：https://jeef.or.jp/



今後の
展望

バングラデシュ国内では環境教育があまり普及していない。そのため、将来的には助成いただき活動した自然学校がバングラデシュ国内における環境教育/ESDの拠点となることを目指す。また、プロジェクトサイトであるシュンドルボン以外にも自然学校を同様に設立し、生計向上と自然環境保全の仕組みをバングラデシュ全土で展開していく。